

学生の外国語能力向上に関する取組等

【薬学部】

1. 学生の外国語能力向上に関する取組(2021年度以降入学者に適用)

1) 外国語能力の到達目標

学部卒業時の英語力の到達目標の目安は、TOEFL iBT71点、または、TOEIC665点相当とする。なお、各自がさらに高い目標値(TOEIC800点相当など)を自主的に設定し、継続的に努力することを推奨する。

2) 外国語能力を向上させるために実施する取組

世界レベルでの研究を推進する能力を磨きながら、同時に英語能力の向上につとめる必要がある。したがって、もっとも重要なのは研究活動(アクティブラーニング)である。研究室での研究を通じて多くの英語論文を読み内容をまとめる、英語での講演会等に参加する、英語で研究発表資料を作成する、英語で論文を公表する等のプロセスを通じて実践的な英語能力の醸成につとめる。研究活動を充実させつつ、ステージごとの英語能力を判断するべく以下の取組を実施する。

- ①学部2年次及び3年次において、学生の英語力の養成に資する授業科目を必修科目として開講する。
- ②薬学科学学生については、部局間交流協定提携校への学生派遣制度を通じて、海外の臨床現場を経験することを推奨する。さらに部局間交流協定提携校からの学生受入を実施し、受け入れた学生との交流も行う。
- ③薬学科学学生については、研究に必要な英語能力の目安を外部試験で評価する。学部4年次7月までに提出されたスコアが TOEFL iBT62 点未満または TOEIC600 点相当未満の学生及びスコア未提出の学生については、修学指導を行う。

2. 学生の国際性を涵養できた事例

学生 C は、学部2年次に薬学英语Ⅰ、学部3年次に薬学英语Ⅱにより薬学領域で必要な英語についての基礎能力を養った。臨床現場での実習で専門性を高めるとともに、薬学論文講読演習など研究活動を通じて実践的な英語能力の醸成につとめた。台北医学大学への学生派遣メンバーに選抜され、海外の病院、薬剤部での研修を通じ臨床英語の能力をさらに磨いた。臨床薬学専攻に進学後、学部6年間で身につけた英語能力をさらに発展させるべく、薬学研究院が実施している北大-オックスフォード大インターンシップにより博士2年次に2ヶ月間、オックスフォード大で研究を進めた。新渡戸スクールにおいて海外学生との交流を企画した他、Hokkaido Summer Institute での海外からの招へい講師の先生との対応も積極的に行っていた。学生 C は現在、大手製薬会社に就職し、企業研究者として活躍している。